

50 周年記念事業検討チーム第 2 回ミーティング概要まとめ

日時 2025 年 2 月 12 日午後 2 時～4 時 オンライン

チームメンバー

座長 森本祥子 全史料協副会長 東京大学文書館

メンバー 太田富康

(50 音順) 金原祐樹 徳島県立文書館

高木秀彰 (欠席)

福島紀子

1 全体的な課題

- ・ 機関会員が事業をリードする、あるいは積極コミットする、ということは現実的には難しい
- ・ 個人がリードするかたちを採らざるを得ない

2 事業案について

2.1 記念誌編纂

- ・ 内容について
 - ・ 過去を振り返るだけでは、内向きな印象
 - ・ 今後の方向性について自由な意見のみを集めるのはリスクも伴う
 - ・ 振り返り＋これからの展望、の両方必要
 - ・ 構成案：(1)振り返り、(2)提言・座談会など、(3)各種資料、(4)年表
- ・ 編集・公開方法について
 - ・ 「50 周年記念ウェブサイト」に情報を徐々に載せていき、まとまったところで刊行する（刊行形態は別途検討）

2.2 全史料協アーカイブズの整備

- ・ 文書管理ルールの方針を含めて全体的な流れを考えるべきというのは正論であるが、会運営のあり方見直しとも関わる案件。よって、周年記念事業として主導するかたちでは扱わない
- ・ 会長事務局の文書のみならず、委員会の文書も視野に入れる必要がある
- ・ 取り組むとすれば、既存の倉庫にある文書の選別・目録作成にとどめる

2.3 AtoM 実装

- ・ 未加入機関の情報も取り込むことで、会を超えた広がりを持たせられる

- ・ 機関会員の情報を掲載することで、事業への機関会員コミットを実現できる

2.4 50 周年記念ウェブサイト

- ・ さまざまな情報が徐々に蓄積していく動的なサイトをつくる。民博 50 周年サイトのイメージ
- ・ 記念誌の代わりとしての役割を持たせることも可能
- ・ 蓄積した情報は、いずれ「50 年」という入り口を取り払って本来あるべきところに置かないと、情報が探せなくなる危険性もある。会が活動している様子を見せる役割と、最終的に情報を集約・発信することとを切り離して考える必要があろう
- ・ サイトを作ることについては、全員前向き
- ・ 参考情報：広報・広聴委員会管理のサーバーに 600GB 程度の空きあり

3 今後の進め方について

- ・ 2025 年度総会後のイベントとして、50 周年記念事業・あり方見直しの 2 チームのとりくみを報告し、会員から意見を募ってはどうか

以上